

転移性膵腫瘍に対する膵切除の治療成績に関する多施設共同研究

1. 研究の対象

2005年1月1日-2020年5月31日の期間に転移性膵腫瘍に対して膵切除を受けた方

2. 研究目的

癌が膵臓へ転移した転移性膵腫瘍に対して膵切除が行われる事は非常に稀であり、その切除後予後や切除適応に関するコンセンサスはないのが現状です。

今回、転移性膵腫瘍に対する膵切除の治療成績を明らかにするため、九州および中四国で膵臓の切除を多く行っている high volume center から症例を集積して切除後予後や切除適応に関して検討します。

3. 研究方法

2005年1月1日-2020年5月31日の期間に転移性膵腫瘍に対して膵切除を受けた患者さんを対象としています。熊本大学病院と共同研究施設で同期間に転移性膵腫瘍に対して膵切除を受けた患者さん約35例も対象とします。

匿名化後に下記取得情報を記載した症例報告書を熊本大学大学院消化器外科へ電子メールで送付します。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

下記の情報を症例報告書（CRF）に記載して解析を行います。

- a. 転移巣切除術前情報：年齢、性別、身長、体重、Body mass index（BMI）、併存症の有無、Performance Status、ASA-PS分類（米国麻酔科学会全身状態分類）、原発巣切除術後補助化学療法の有無、原発巣切除術後補助化学療法の詳細、転移個数、転移巣最大腫瘍径（mm）、転移臓器、血液学的所見（WBC, Hb, Ht, Plt, %Neut, %Lymph, CRP, T-bil, D-bil, TP, Alb, AST, ALT, LDH, BUN, Cr, Na, K, Ca, 腫瘍マーカー（原発巣術前、転移巣術前））、
- b. 原発巣手術情報：手術日、術式、出血量、手術時間、輸血の有無、輸血の詳細、開腹/腹腔鏡、退院日、術後在院日数、病理診断、腫瘍径、最大腫瘍数、腫瘍個数、TNM分類、stage、根治度、術後合併症の有無、術後合併症の内容、Clavien-Dindo分類。
- c. 転移巣（膵）手術情報：再発確認日、原発切除からの無病生存期間、転移性膵腫瘍切除前化学療法の有無・レジメン・効果、手術日、原発巣切除から転移巣切除までの期間、術式、出血量、手術時間、輸血の有無、輸血の詳細、開腹/腹腔鏡、退院日、術後在院日数、病理診断、最大腫瘍径、腫瘍数、根治度、術後合併症の有無、術後合併症の内容、Clavien-Dindo分類、膵以外の手術情報。
- d. 転移巣（膵）術後情報：転移巣術後補助化学療法の有無、転移巣術後補助化学療法の詳細、最終生存確認日、転移巣切除からの生存期間、生死、死因、死因の詳細、再発の有無、再発確認日または最終生存確認日、再発部位、再発後の治療の有無・詳細。

5. 研究の実施体制

研究代表 熊本大学消化器外科 教授 馬場 秀夫
共同研究機関 済生会熊本病院、熊本医療センター、九州大学消化器・総合外科、
大分赤十字病院、九州がんセンター、飯塚病院、広島赤十字病院、松山赤十字病院

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

済生会熊本病院 外科 高森 啓史 （研究責任者）

熊本市南区近見 5-3-1 TEL：096-351-8000

以上